

建設新聞読むなら建通新聞。[建設専門紙]

助太刀総研が建設業働き方フォーラム開催

2024/7/18 東京

助太刀（東京都新宿区）の研究組織「助太刀総合研究所（助太刀総研、植村具民所長）」は7月17日、「建設業働き方フォーラム2024～働き方の未来をつくる～」を東京都内で開催し、政産官学の専門家が建設業界の課題について議論した。建設産業専門団体連合会の岩田正吾会長は、「日本の建設業界は欧米に比べて賃金が低いことから、若い人材が他産業に流れてしまう」と指摘。担い手不足の課題についても、「今後は経験豊富な技能者が大量に退職するので、品質面での不安が出てくる」と危機感を述べた。その上で、「他産業と比較しても人材は入ってこない。大変な仕事に見合った賃金がもらえるよう、業界を変えていかなければならない」と訴えた。

日経アーキテクチュアの木村駿編集長（日経BP）は、2024年問題への取り組みや働き方などの課題について、「建設業界全体の危機意識の低さ」と「取り組みのアピールが少ないこと」を挙げた。さらに、「建設業は歴史が古く、ビジネスのエコシステム（ビジネスの生態系）ができており、そこからさまざまな課題が生まれている」と説明。「解決のためにはエコシステム自体を変える必要がある。自分たちだけで難しいなら、スタートアップの知見を活用するなど、足りないリソース（資源）を補うことが重要だ」と話した。

フォーラムには約220人が参加。当日の内容は準備が整い次第動画で公開する。研究発表「建設業の賃金上昇に係る考察」については、助太刀総研のHPで公表する予定だ。



左から、木村実氏（助太刀・社外取締役）、宮沢正知氏（国土交通省・大臣官房参事官「建設人材・資材」）、長谷川周夫氏（建設業振興基金・専務理事建設キャリアアップシステム事業本部長）、岩田正吾氏（建設産業専門団体連合会・会長）

Copyright © 2006-2024KENTSU SHINBUNSHA. All Rights Reserved